
刺された。

鈴子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
刺された。

【コード】
N4686H

【作者名】
鈴子

【あらすじ】
ぶち怪談。虫刺され、あなたは大丈夫ですか？

中学時代、友達が膝を搔いていた時のことが忘れられない。ご丁寧に包帯までしているので何事かと聞いてみたら、蚊に刺されたのだと言う話だった。

「大袈裟な」

笑ったら、じゃあ見てみる？ と凄まれ、ひるんだ。彼女の目つきが真剣だったから。咄嗟に、包帯の中を見たくないと感じたのだ。気を取り直して、友達が言う。

「襖に止まったからさあ、えいって叩いたらヒットしたの。でも、もう刺された後で、襖には血がついちゃってさ」

軽い口調にはなったが、目つきが変わっていなかった。家に来るかと問われたので、これも丁寧に辞退した。残念と笑う彼女の目は、やっぱり笑っていない。

「これ3日前の話なんだけどさ、昨日やっと襖の染みが広がってることに気がついてさ。刺された後だった私の膝も、ちょっと大変なことになってきてさ」

どうしよう、話せば話すほど彼女の様子がおかしい。っていうか、さらっと言ってるけど襖の染みが広がってるなんて、ありえない。こすったから、とかいう、そんな理由ではなさそうだ。どうして、とも訊けない。彼女の目つきがおかしい。逃げたい。でも逃げたら、背中を見せたら何かされそうで目が放せない。

やっと鳴ったら5時間目開始のチャイムが、教会の鐘にも感じられた。彼女がじゃあねと自発的に去ってくれるまで、一生懸命見ていた。彼女の背中に手を振る私の顔は、笑顔で凝り固まっていた。放課後は、速攻で逃げた。

翌日から、友達は不登校になった。先生が様子を見に行ったらしいが、家には誰もいなかったらしい。夜逃げだと囁かれたものだったが、私だけは違う理由で空き家になったんだと感じている。もち

るん、そんなこと誰にも言わないけれど。友達の家には絶対に近づかないけれど、今じゃ幽霊屋敷という、もっぱらの噂だ。

思い出される感情は、彼女の膝だけでも見てみれば良かったかなという厄介な好奇心だが、それはきつと、見なくて正解だったのだ。と自分に言い聞かせている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4686h/>

刺された。

2010年10月8日12時57分発行